

平成 20 年 6 月 12 日

各 位

会 社 名 東日本ハウス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 成田 和 幸
 (J A S D A Q ・ コード 1 8 7 3)
 問 合 せ 先 取締役経理部長 青 苺 雅 肥
 T E L (0 3) 5 2 1 5 - 9 9 0 5

平成 20 年 10 月期 中間期及び通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 10 月期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日）中間期及び通期の業績予想について、平成 19 年 12 月 28 日付当社「平成 19 年 10 月期決算短信」及び平成 20 年 3 月 18 日付当社「平成 20 年 10 月期第 1 四半期財務・業績の概況」にて発表いたしました中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

1. 平成 20 年 10 月期連結業績予想の修正等

(1) 中間期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想 (A)	22,300	△2,200	△2,680	△3,120
今回修正予想 (B)	23,113	△1,006	△1,572	△1,638
増減額 (B - A)	813	1,194	1,108	1,482
増減率 (%)	3.7%	—	—	—
[ご参考] 前期実績 (平成 19 年 10 月期中間)	25,260	△1,060	△1,802	△3,022

修正理由

中間期

売上高につきましては、個別の完成工事高増加により前回予想を上回り 23,113 百万円となる見込みです。営業損益につきましては、売上高増加及び原価低減により売上総利益の改善及び経費削減が見込まれることから、営業損失 1,006 百万円となる見込みです。経常損益につきましては、営業損益が 1,194 百万円改善したことにより経常損失 1,572 百万円となる見込みです。中間純損益につきましては、連結子会社、東日本ハウスサービス株式会社の債権譲渡損 197 百万円を特別損失に計上するものの、上記の経常損益の改善に加え平成 20 年 4 月 16 日付「特別利益の計上に関するお知らせ」にて発表いたしました、子会社の宝くじ神社株式会社の株式譲渡に伴い投資有価証券売却益 352 百万円を計上したことにより、前回予想を上回り、中間純損失 1,638 百万円となる見込みです。

(2) 通期 (平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	65,960	4,230	3,388	2,254
今回修正予想 (B)	66,360	4,300	3,320	2,700
増減額 (B - A)	400	70	△68	446
増減率 (%)	0.6%	1.7%	△2.0%	19.8%
[ご参考] 前期実績 (平成 19 年 10 月期)	66,010	3,436	2,199	△77

修正理由

通期

売上高につきましては、連結子会社、株式会社東京工務店において翌期に見込んでおりました売上高の一部前倒しが見込まれることから 400 百万円増加し 66,360 百万円となる見込みです。営業利益につきましては、東日本ハウスサービス株式会社の解散及び清算に伴い、営業利益 108 百万円減少見込となるものの、個別の改善により前回予想を上回り、4,300 百万円となる見込みです。経常利益につきましては、持分法適用会社、東日本沢内総合開発株式会社の当期純利益が予想を下回ることから持分法損失 70 百万円が追加発生として見込まれることにより、3,320 百万円となる見込みです。当期純利益は、中間期に計上いたしました投資有価売却益 352 百万円に加え、個別の改善が見込まれることから、2,700 百万円となる見込みです。

2. 平成 20 年 10 月期個別業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回発表予想 (A)	16,500	△2,700	△3,100	△3,230
今回修正予想 (B)	17,388	△1,478	△2,002	△2,292
増減額 (B - A)	888	1,222	1,098	938
増減率 (%)	5.4%	—	—	—
[ご参考] 前期実績 (平成 19 年 10 月期中間)	21,521	△1,251	△1,992	△2,966

修正理由

中間期

売上高につきましては、下半期に見込んでおりました完成工事高が一部前倒しになったことにより、17,388 百万円となる見込みです。営業損益につきましては、売上高増加及び原価低減により売上総利益が 527 百万円改善したことや、経費削減により前回予想を上回り、営業損失 1,478 百万円となる見込みです。経常損益につきましては、雑損失 75 百万円を営業外費用に計上することと、持分法適用会社の東日本沢内総合開発株式会社に対する貸倒引当金繰入額 111 百万円を計上するものの、売上高増加及び原価低減ならびに経費削減などにより営業損益が 1,222 百万円改善したことにより、前回予想を上回り、経常損失 2,002 百万円となる見込みです。中間純損益につきましては、子会社の宝くじ神社株式会社の株式譲渡損 100 百万円、銀河高原ビール株式会社の当中間期における事業整理損失に対する貸倒引当金繰入額 54 百万円、販売用土地評価減 36 百万円、固定資産売却損 17 百万円、固定資産除却損 62 百万円等を特別損失に計上したものの、経常損益が 1,098 百万円改善したことにより、前回予想を上回り中間純損失 2,292 百万円となる見込みです。

(2) 通期（平成 19 年 11 月 1 日～平成 20 年 10 月 31 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	55,700	3,030	2,280	1,900
今回修正予想（B）	55,700	3,260	2,420	2,050
増減額（B－A）	0	230	140	150
増減率（％）	0.0%	7.6%	6.1%	7.9%
〔ご参考〕前期実績 （平成 19 年 10 月期）	57,252	2,636	1,413	△177

修正理由

通期

売上高につきましては、建築基準法改正の影響またサブプライムローン問題、原油価格高騰、住宅ローン金利上昇等の影響等から新築住宅着工戸数は低水準で推移しており、当社を取り巻く事業環境は厳しい状況が続くものと思われまます。こうした状況下、上半期の受注実績及びに中間期末の受注残高等を勘案した結果、通期の売上高は前回予想のとおりといたしました。営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、平成 20 年 6 月 2 日付「子会社の解散及び清算に関するお知らせ」にて発表いたしました連結子会社、東日本ハウスサービス株式会社の解散及び清算に伴い業務委託契約解除により販売管理費が 150 百万円減少（東日本ハウスサービス株式会社に対する、点検業務委託費 360 百万円減少及び当社が同事業の継承に伴う販売管理費 210 百万円増加）と見込まれることから、営業利益、経常利益、当期純利益がそれぞれ前回予想を上回る見込みです。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上